



大阪市立美術館
Osaka City Museum of Fine Arts

コレクション展

カザールコレクションと私たちと未来と

2017 年 11 月 28 日 [火] – 2018 年 1 月 21 日 [日] 大阪市立美術館



【図版1】月に兎・太陽に烏蒔絵螺鈿印籠
江戸－明治時代 古満寛哉（花押）銘



【開催にあたり】

1999 年、大阪市立美術館ではカザールコレクション展を開催いたしました。本展は、およそ 20 年ぶりとなる大規模な展示であり、出品件数は 201 件となります（※）。

元来、過去に製作された作品の一点一点には、作り手や持ち主など先人たちとともに過ごした時間と想いが詰まっています。遙かな時を越えて、私たちの眼前にあらわれた作品は、あたかも時を刻むことを忘れた時計のように、一見すると静かにたたずんでいるように見えます。ところが、私たちが忙しい足をとめて作品と向き合うとき、作品に宿る息づかい、休むことなく刻々と積み重ねられていく時間の重みを感じ受けることができるでしょう。私たち一人ひとりが明日を迎えるように、作品一つひとつも同じように時間を過ごしていきます。しかし作品は、自らの意志では命を繋いでいくことができません。

本展では、カザールコレクションの一端をご覧いただくとともに、私たちにはこれらの作品を未来へと受け継いでいく、大切な使命のあることをご理解いただければ幸いです。

※ 作品件数は、数え方によって異なります。

■U.A.カザール氏とカザールコレクション

実業家であったドイツ系スイス人 U.A.カザール氏（Ugo Alfonso Casal, 1888－1964）が、明治末から昭和中期にかけて蒐集した、日本、中国および東南アジアの漆工品およそ 4000 件からなるコレクションです。カザール氏は、アンドレア・カザール氏の長男としてイタリア・フィレンツェに生まれ、商業学校へ進学したのち、1909 年からフォルカート・ブラザーズ商社（Gebrüder Volkart）のインド支社代表を務めました。明治末年（1912）に大阪支社への異動に伴い来日を果たすと、以後神戸の私邸で息を引き取るまでの半世紀にわたり、当時ほとんど顧みられていなかった江戸後期－明治期にかけての美術品を中心に、膨大な数の作品を蒐集しました。その一方では、かつての日本人が評価を見誤り、海外へと流出・散逸し、果ては消失してしまった工芸品も数多くありました。

昭和 16 年（1941）冬、カザール氏がコレクションをアメリカへ移送しようとした矢先、日米開戦に見舞われ計画は頓挫しました。戦時中は作品の保管さえ危ぶまれましたが、幸運にも戦火を免れることができました。その後、コレクションの多くは昭和 56 年（1981）年度から都度 5 回に分けて本館に収蔵され、「カザールコレクション」と称して館蔵品の中核を形成するに至っています。

近年、江戸後期－明治期における工芸の人気に伴い、カザールコレクションにも熱い視線が注がれています。今では国内でも希少となった作例も含め、印籠、根付などの装身具は国内外コレクター垂涎の的であり、あざやかな朱色が目を奪う杯などの飲食器具、豪華な金蒔絵をほどこした婚礼調度の一群などは、見ごたえ十分な一大コレクションです。



■展示の内容と見どころ

第1室

江戸－昭和時代の作品 31 件を展示。贅^{ぜい}を尽くした婚礼調度、華やかな日常使いの道具類をご堪能ください。展示室中央の大型ケースでは、宴の一場面を再現しています。一足先に、お屠蘇^{とそ}気分^{ひた}に浸^{ひた}ってみるのはいかがでしょうか。



第1展示室



手前《九曜紋松橘時絵婚礼調度》江戸時代 18 世紀
奥 扁額^{へんがく}《古髻藏^{こきゅうぞう}》大正-昭和時代 20 世紀

第2室

江戸－大正時代の作品 28 件を展示。手箱と並び、日常空間を飾った調度の代表格「硯箱^{すずりばこ}」を中心とした文具の世界をご覧ください。そこに描かれた季節にちなむ花鳥や風物もお楽しみください。



《桜紅葉青貝色紙箱》江戸時代 18-19 世紀



《秋草鶏時絵硯箱》江戸-明治時代 19 世紀

第3室

江戸－明治時代の作品 109 件を展示。女性の身だしなみに欠かせない櫛や簪^{かんざし}、香りを聞いて楽しむ香道具、男性の装飾品である印籠・根付^{きつえんぐ}、喫煙具などを紹介いたします。今回は動物や伝説上の生物を意匠化した作品をおもに選んで展示いたします。どうぞ、あなただけのお気に入りを見つけてみてください。



《花丸文素地蒔絵象牙香筆筒》明治時代 19 世紀



《根付筆筒》江戸・明治時代 19 世紀

第4室

江戸時代の馬具や遠眼鏡^{とおめがね}、中国・タイなどの漆工品を含む 33 件を展示。これらは日本およびアジアの美術を多角的に考えるうえでも、重要なコレクションとなっています。カザール邸の一室にもうけられたコレクション陳列室を撮影した、ガラス乾板^{かんばん}も見どころです（初公開）。



《花鳥丸文螺鈿鼻煙壺》清時代 19 世紀



第4展示室 手前《堆朱牡丹文盆》明時代 15 世紀



【開催要項】

- 展覧会名 カザールコレクションと私たちと未来と
- 会期 2017 年 11 月 28 日 [火] - 2018 年 1 月 21 日 [日] 開館日数 44 日間
- 主催・会場 大阪市立美術館
- 開館時間 9:30 am - 5:00 pm (入館は 4:30 pm まで)
- 休館日 月曜日 (12 月 25 日、1 月 8 日は開館)、
年末年始 (12 月 28 日 - 1 月 2 日)、1 月 9 日 [火]
- 入館料 一般: 300 円 (団体 150 円)、高大: 200 円 (団体 100 円)
中学生以下、障がい者手帳等をお持ちの方 (介護者 1 名を含む)、
大阪市内在住の 65 歳以上の方は無料
- 【要証明 (健康手帳、敬老優待乗車証等の原本)】
- 団体は 20 名以上。
 - 特別展・特別陳列などの料金は別途定めます。
 - 特別展併設時は特別展観覧料にてコレクション展もご覧いただけます。
- 交通案内 JR「天王寺駅 (中央改札口)」より徒歩 15 分／
大阪市営地下鉄御堂筋線・谷町線「天王寺駅」より徒歩 10 分／
近鉄南大阪線「大阪阿部野橋駅 (西改札口)」より徒歩 15 分／
阪堺電気軌道「天王寺駅前駅」より徒歩 15 分／
市バス「あべの橋」停留所下車、徒歩 15 分
※最寄り駅を下車し、「てんしば」の北西へ約 400m (天王寺公園内)

大阪市立美術館

〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町 1-82 (天王寺公園内)

Tel 06-6771-4874 Website <http://www.osaka-art-museum.jp/>

【広報用図版】

【図版1】がメインビジュアルです。1点掲載の場合、下記の図版をご使用ください。

掲載時トリミングや文字載せはご遠慮ください。必ずクレジットをご記載ください。

クレジット（図版すべて）：©Osaka City Museum of Fine Arts 大阪市立美術館カザールコレクション



【図版2】五節句蒔絵手箱 明治時代 是真銘



【図版3】蒔絵子犬形香合 明治時代



【図版4】舌出し猿陶製根付 江戸-明治時代



【図版5】葵紋獅子牡丹蒔絵鞍 江戸時代

取材・図版提供などのお問い合わせ先：大阪市立美術館 総務課 広報担当

Tel 06-6771-4874 Fax 06-6771-4856